

大企業優先の新自由主義路線から 神戸市を成長させる施策へ転換を!!

9月22日に神戸市会本会議がひらかれ、日本共産党神戸市議団の味口としゆき議員と朝倉えつ子議員が登場し代表質疑をおこないました。

神戸市の2022年度各会計決算では、都心・三宮再整備やウォーターフロント再開発などの無駄な大型公共事業に聖域なく莫大な予算を投じています。一方で公立保育所・幼稚園・小中学校など立て続けに統廃合をうちだすなど、街の衰退を助長しています。味口議員は、人口減少数は政令指定都市トップであり、再開

発・大型公共事業に傾注してきた成果や成長は感じられないと質疑しましたが、久元市長は一言も成果を語れませんでした。味口議員は、久元市政の方針は新自由主義路線であり、公共サービスの切り捨て、公共部門の民営化と規制緩和を進めた国の方針に追随し、神戸市は人口減少が深刻化していると質しました。

味口議員が 代表質疑



質疑項目

1. 開発優先・大型公共事業優先の施策の転換について
2. 王子公園再整備基本計画(素案)について
3. 水道料金、市営交通料金などの市民負担増について
4. こども家庭センターなどの職員体制強化について

較で検討するような話ではない。

味口議員：渡った先のウォーターフロントでは、マンションの建設が終わっているのに集客施設や企業がメインで保育所や学校施設がない。これだけ大型公共事業に傾注しても人口減少は予想以上に進んでいるではないか。

久元市長：これは神戸だけでなく国全体で起きていること。三宮再整備や駅前リノベーションを進めたい。

味口議員：それでは人口減少は止まらない。再開発は市民のためにすることだ。今、再開発・大型公共事業への投資から脱却すべきだ。

答弁ダイジェスト

味口議員：市長も成果や成長を感じていないのではないのか。それどころか「渡りたくなる歩道橋」(三宮東遊園地-税関前歩道橋)は特殊な設計の吊り橋のために、まだお金がかかるからと工事ができなくなった。夢を描いたが頓挫しているのが今の三宮の現状だ。

今西副市長：三宮とウォーターフロントの回遊性の向上

には必須の歩道橋だ。

味口議員：今の歩道橋を使ってエレベーターを新しく4基に増やすなら6億でできるのに、北側はスロープのみで南側にしかエレベーターがない歩道橋に23億円もかけるような野放図なやり方に「おかしい」と言うのが市長の役割ではないのか。

今西副市長：港にはアリーナができ、歩いて移動される方が大変増える。6億との比

王子公園再整備基本計画(素案)

大学誘致ありきで、 動物を半減する計画はやめよ

神戸市は、「大学誘致より、王子公園・動物園の充実を」という市民の声や願いを一切顧みず「王子公園再整備基本計画(素案)」を出しました。動物は半減、遊園地はなくなり、スポーツ施設は軒並み廃止・縮小し、さらに桜などの

伐採計画は明らかにせず、景観・環境悪化が懸念されるものです。味口議員は、市長の思惑だけ優先し、大学誘致を強行するもとの公園を切り売りすることは許せないと厳しく批判し、計画素案の撤回を求めました。

答弁ダイジェスト

今西副市長：市民の意見を伺いながら素案を策定した。10月2日から素案の意見募集を実施する。

味口議員：素案ではどれだけ桜の木が残るのか隠されたままだ。また、動物の種類が半減することも市民に配布するミニニュースには書かれていない。きちんと情報を開示すべきだ。

今西副市長：(桜の木は)できるだけ保存し新たな植栽

もおこなうことを明記している。120種の動物を分類するコレクションプランは、動物園・水族館協会の方針に準拠したものだ。

味口議員：きちんと明記して市民に問うべきだ。公共の施設を営利の場として提供し、さらに動物まで半分にするような将来に禍根を残す計画は撤回すべきだ。

※計画(素案)への意見募集については、裏面の下部に記載しています。

市民の命を守る病院として 存続できるよう力尽くせ



質疑項目

1. 済生会兵庫県病院と三田市民病院の統合について
2. 障がい者の親亡き後対策について
3. 女性の賃金差別是正について

済生会兵庫県病院と三田市民病院は、これまで統合推進のための基本協定など神戸市と三田市の市長と両病院で協議をおこなってきましたが、今年の三田市長選挙では、再編統合をすすめてきた前市長は市民から厳しい審判を受け

て落選し、「病院統合は白紙撤回」と公約を掲げた新三田市長が誕生しました。朝倉議員は、三田市民の民意を尊重し、神戸市として済生会兵庫県病院と三田市民病院の統合を強行すべきではないと追及しました。

だ。新市長は市民の声を聞きながらと言ってる。神戸市もきちんと市民の意見を聞くべきではないか。

久元市長：市民の声を聞いて、議会で議決いただいた経緯を踏まえて対応していきたい。

朝倉議員：北神地域の市民の皆さんは、「統合ありきで進んでいる」と声をあげている。両病院はコロナで地域の拠点として頑張ってきた。厚労省からも「病床削減や統廃合ありきでなく、地域の実情を踏まえて」と地域医療構想の進め方についての通知を出した。病院が大きくならなけ

朝倉議員が代表質疑

ればというなら、増床も視野に入れ、存続できるように神戸市が支援すべきだ。

久元市長：両病院が単独で存続できることが一番望ましいが、できないから苦勞して議論してきた。

朝倉議員：市民は統合を誰も望んでいない。単独が難しいなら存続できるように支援するのが行政の役割だ。両市が市民の声を聞き、統合ありきでなく市民の命を守る病院になるよう力を尽くすべきだ。

答弁

久元市長：三田市長選の結果を受けて協議が滞っている状況だが、ボールは三田市側にある。できるだけ早期に三田市の考え方を示してほしい。

い。しかし、選挙の結果で神戸市の判断や方向性に影響を与えられるものではない。

朝倉議員：三田市民は「病院統合白紙撤回」の新市長を選んだ。その結果は重いもの

障がい者が親亡き後も安心して暮らせる よう、実態把握し市の責任で必要な整備を

神戸市は「第7期神戸市障がい福祉計画」の策定に向けて議論し、障がい者のグループホームの定員数を2026年までに2000人という目標を示しました。市による関係団体へのヒアリングでも、障がい者のグループホームなど、地域での暮らしを保障するための施設は、「すべて不足している」と意見が出されています。介助をする家族の高齢化

も進み、「私がもし倒れたら、この子は一人では暮らしていけない、暮らす場所が地域にはない」強度行動障害の子どもを持つ保護者の方からは「『どこも引き受け手がない』と言われ、途方に暮れる」と声が寄せられています。朝倉議員は、障がい者の実態を把握し、市の責任で市民に必要な施設をきちんと整備するべきと質しました。

答弁

小原副市長：障がい者グループホームの整備は重要だと考える。第6期目標の定員はすでに達成したが、千人当たりの定員数は他の政令市と比較して少ないと認識している。7期ではさらなる定員増に加え重度障害者に対応したグループホームの整備もおこなってきたい。

朝倉議員：近くにグループホームがなく、家族でつくるしかない相談に来た方がいる。家族介護は限界に達している。家族の責任のままにして良いのか。定員数の不足を

認めているのなら、市として具体的にどう推進し実現していくのか。

小原副市長：例えば市営住宅や県営住宅の活用、補助制度の活用についても市街地を希望される利用者もいるので、そういった部分の補助のかさ上げを実施している。

朝倉議員：市街地だけではなく北区や西区でも足りていない。今は特別支援学校も満杯だ。この子どもたちの将来を考えたならご家族の不安は当然だ。人口減少対策では、1歳刻み、小学校区ごとに計画を立てるというなら、障がい者の実態もきちんと把握し、足りないグループホームなど、市民の役に立つ施設をつくるべきだ。

小原副市長：計画策定時にはアンケート調査や関係者のヒアリングも実施して実態把握につとめたい。

ぜひご視聴ください

大かわら鈴子議員が総括質疑

日時 10月10日(火) 13時50分頃から 場所 市議会本会議場

時間が前後する可能性がありますので、余裕をもってご覧ください

ご視聴はこちらから↓



計画(素案)の撤回へ、声を集中しましょう!

募集期間・2023年10月2日(月)~10月31日(火)

王子公園
再整備基本計画(素案)への
意見募集はこちらから

①送信フォーム



②郵送 〒651-0083 神戸市中央区浜辺通2-1-30

三宮国際ビル7F 神戸市都市局未来都市推進課 意見募集宛

③FAX 078-595-6690

④メール ojikoengeikaku@office.city.kobe.log.jp

⑤持参 郵送場所と同じ (平日8:45~12:00、13:00~17:30)